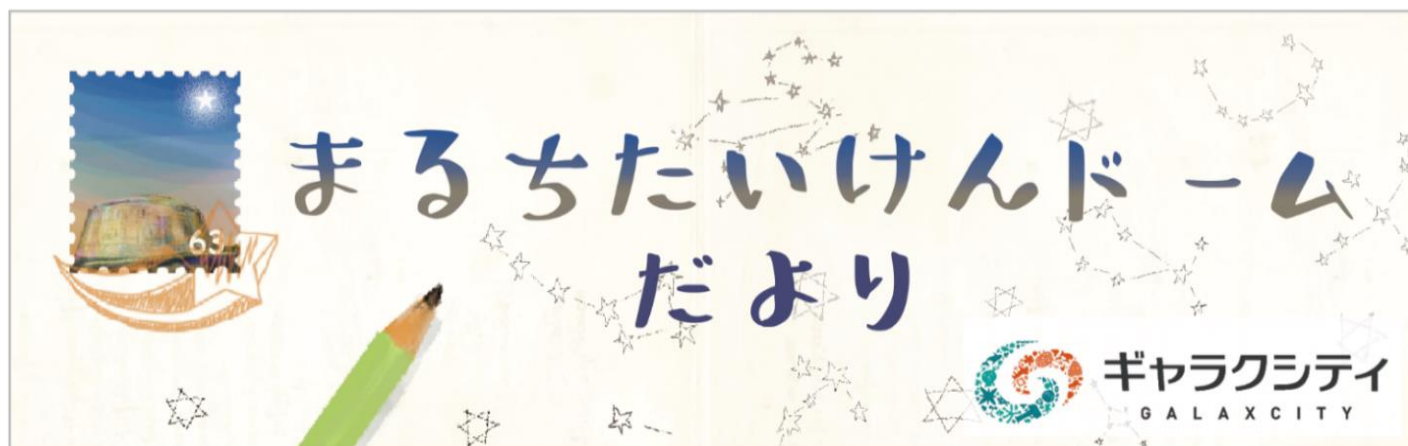


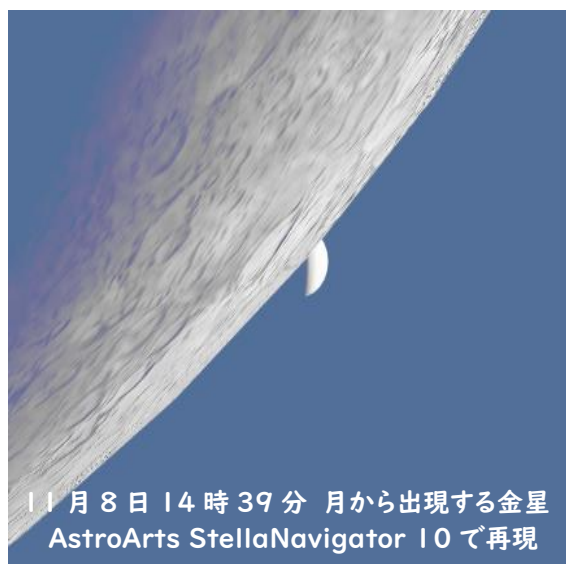


がいごう 外合を迎えた金星

3月24日金星が外合を迎えました。金星は地球の1つ内側の軌道で太陽の周りを回っています。そのため、584日ほどで地球に近づいたり遠ざかったりを繰り返しています。外合とは地球から見て、金星が太陽の向こう側へ行ってしまった時のことです。つまり、とても観察しにくい所にいるのですが、ここからだんだん見やすくなり、5月頃から年末まで金星はずっと夕方方の西の空(宵空)に輝くことになります。長い間、見やすい時期が続きます。

10月30日には太陽から東へ47度も離れます。にぎりこぶし5つ分です。これを「東方最大離角」といい、金星が最も見やすい時期にあたります。

12月4日には最も明るく輝きます。マイナス4.7等という明るさは1等星を190個集めたほどの明るさです。これを「最大光輝」といいます。この頃の金星は望遠鏡で見ると三日月のような形に見えます。



11月8日14時39分 月から出現する金星
AstroArts StellaNavigator 10で再現



最大光輝(12月4日)の頃の金星の姿
AstroArts StellaNavigator 10で再現

この間、11月8日の昼間、金星が月に隠される現象である「金星食」が起こります。13時46分頃から14時40分頃の1時間ほどの現象です。

12月からは急速に太陽に近づき、2022年1月9日には内合となり地球からはほとんど見えなくなります。ほんの1週間ほどで金星は宵の空から素早く姿を消すように感じられます。

2021年3月25日記 (解説員: 田部一志)